



遠宮で結ぶ人の輪 心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮

# 大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成 18 年 (2006)

平成18年 大宮八幡祭り(秋の大祭)号 (76号)

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

## 主な目次

自然のリズム感とまつり……………	2頁
大宮八幡祭り(秋の大祭)案内 ……	3頁
杜の話題……………	4頁
十五夜の神遊び……………	7頁
初宮詣芳名……………	9頁



重陽の節句・菊被綿飾り [読売新聞社提供]

# 自然のリズム感とまつり

宮司 鎌田紀彦



今、残念に思いますが、西洋ではお墓の供花に使用されていることから、最近日本で葬儀の花にと

残暑の厳しい中にも、そこはかとなく秋風の気が感じられる様になり、緑豊かな神苑に涼やかにすだく松虫や鈴虫、きりぎりす、こおろぎなどの虫の音には何とも云えぬ風情があります。また秋の七草「はぎ、おぼな、きず花、なでさがお」に代表される様に、秋の草花は華やかで春の花より美しくもありませんが、何故か寂しさも感じられます。草木に露が降り初める白露の頃は、新暦の九月九日の重陽です。九は最高の陽数で、その陽数が重なる「重陽」は最高にお芽出度い日とされ、重陽の節句です。又重陽の花は菊で、当宮では平安朝に行われた菊被綿を飾りお祝いしております(九月十八日まで展示)。大きな菊の花に三色の真綿を付けます。もともとときまりはなかつたのですが、江戸時代に「白菊に黄色の真綿を、黄菊には赤い綿を、赤い菊には白い綿を」とルールが決められました。さらに綿の上にも小さい菊綿をしべ(蕊)のように載せることになっております。本来の重陽は旧暦の九月九日(平成十八年は十月三十日)で、菊は一年の最後に咲く花でありました。かつての花は野菊のような小菊であつたと云われています。中国が原産で、古代中国では仙境に咲く花で破邪延寿の効能があると信じられていました。日本でも不老長寿の花とされ、気高く美しく香り高い花として尊ばれ、又皇室の御紋も菊であり、日本人にとって大変貴重な花であります。

して用いられる様になった事です。本当は白菊、黄菊は最高に高貴な花で不老長寿の延命の花であつた訳ですが皮肉なことです。このように高貴な花として尊重される様になったのは、黄色い菊の花の色が日が経つにつれて真白になり、やがて紫色(ピンク色)になる。その移ろいゆく色の変化に何とも云えない神秘的なものゝあわれが感じられると云う、日本人独特の美意識の現われであると云われています。いづれに致しまして前日の九月八日の夜に菊の花に真綿をのせ翌朝、菊の香りと露の降りたその真綿を体につけると若返りと長寿が約束されると云うものです。特に女性の間ではパツクすると美人に成れると云う訳で、贈答用として用いられたことが「紫式部日記」や「紫式部集」に見られます。菊の露若ゆばかりに袖ふれて花のあるじに千代はゆづらむ

尚、旧暦の八月十五日の仲秋の名月には仲秋祭が行われていました。全国の八幡様のお祭りが新暦の九月十五日に行われているのも、月遅れの仲秋祭で、当宮も九月十五日に例大祭をご奉仕致しました。十五夜の満月の夜に広く行われており、お祭りそのものに自然感もあり、如何にも神々と相通じる心の交流が息づいておりました。現在の様に新暦によって行われる祭りには季節感が実感として感じられなくなつております。特に戦後色んな伝統的な習慣が否定され、希薄化しております。東京砂漠と云われて久しいのですが、暗黒著るしい都心にあつて少しも、月の満ち欠けや草木などの自然の移ろい等リズム感覚を取り戻し、心のゆとりや安らぎのある生活をして行きたいものでございます。中でも大宮八幡祭りのクライマックスは何んと云つても神輿の合同宮入りで、今年で第二十一回目となり、新たに一基が加わり、八基の御神輿に依る御神輿振りが、拝殿前の聖なる広場で所狭しと繰り広げられるのです。このお祭りならではの能動的でエネルギー溢る熱気が溢れ、御神輿を昇ぐ人々もそれらを陪観する人々も、神々と一体であることを感じ、一段と高められた、元気の氣を頂き、気の甦るときでもあつてお祈りします。因に病氣は氣を病むと書きますが、気が弱くなり病氣は氣を枯れになり、けががあります。祭りには心の充電の出来るチャンスがあります。八幡大神様の広大無辺なご神威(聖なる波動)に感応出来るお祭りは、その氏子地域や町内全体が一層強い絆で精神的に結ばれ高揚されて、氏子・崇敬者の皆様の心のバランズが保たれる絶好の機会であると思ひます。又お祭りを通じて神々との触れ合いや、自然のリズム感覚を取り戻して頂くことは、今の精神的混迷の時代からいち早く抜け出る方法であると確信致しております。大神様のご神恩に感謝致しつゝ、今年の大宮八幡祭りを盛大に賑々しく斎行させて頂き度く存じおりますので、多くの氏子・崇敬者の皆様のご参詣を心よりお待ち申し上げております。

新秋爽やかに  
**大宮八幡祭り（秋の大祭）**  
 斎行

風そよぐ爽りの秋を迎え、恒例の大宮八幡祭り（秋の大祭）が九月十四日より十八日の五日間にわたり斎行されます。十五日午前には神社本庁より献幣使参向のもとに例大祭を斎行、秋の収穫に感謝し皇室国家の安泰を祈念致します。十六日夕の宵宮祭に続き翌十七日には氏子奉幣祭（奉祝当日祭）が行われ、大宮、方南、和田、松ノ木の氏子四地区より寄せられた赤誠のご浄財が氏子幣として奉幣使により大前に献じられます。またこの日夕刻には第二十一回の神輿合同宮入りが執り行われ、境内は熱気のもつぽと化します。この他古式による弓道小笠原流の三三九手挟式や平安の宮中行事・菊被綿飾りなどの数々の神賑行事の奉納もあり、天



保六年撰の『江戸名所図絵』にも「三日の間、市立ちて賑はへり」と記されているように、今でも終日多くの参拝者でご社頭が賑わいます。

大宮八幡祭り（秋の大祭）  
 祭典と奉納神賑行事

神輿神霊入れ神事	9月14日
若宮八幡神社 並びに白幡宮例祭	9月14日
例大祭・献幣使参向	9月15日
各神幸所清祓・宮司巡拝	9月16日
宵宮祭	9月16日
氏子奉幣祭（奉祝当日祭）	9月17日
第二十一回神輿合同宮入	9月17日
神輿神霊返し神事	9月18日
後朝祭（直会の儀）	9月18日
<b>神賑行事</b>	
弓道奉納射会	9月10日
園児民謡踊・杉並太鼓	9月16日
方南エイサー踊り	9月16日
高井戸囃子	9月17日
町内神輿渡御	9月17日
スカウト神輿	9月17日
スカウトバザー	9月17日
小笠原流三三九手挟式	9月17日
舞楽「倭成雅楽云」	9月17日
野点茶会	9月17日
第8回菊被綿飾り	9月9日～18日
第28回小原流献華展	9月15日～18日
盆栽展	9月16日・17日
奉納書画行燈	9月9日～10月8日
献灯提灯	9月9日～10月8日
露店	9月16日・17日

氏子町会神幸所  
 大宮地区  
 （宮元会神幸所）  
 大宮一丁目町会神幸所  
 方南地区  
 峰睦会神幸所  
 （峯栄会神幸所）  
 新栄若睦会神幸所  
 泉南睦神幸所  
 方南西神幸所  
 方南東神幸所  
 方南東神幸所（上）  
 方南東神幸所（下）  
 和田地区  
 和田睦会神幸所  
 和田敬神会神幸所  
 和田仲組神幸所  
 和田南神酒所  
 和田東神酒所  
 松ノ木地区  
 松ノ木睦会神幸所

第6回『十五夜の神遊び』  
 月の音コンサート  
 10月7日（土）午後6時

# 杜の話題

## 春の大祭(つつじ祭)斎行

平成十八年春の大祭が去る五月一日より五日の間斎行され、風薫る青葉若葉の色鮮やかな境内は多くの参拝者で賑わいました。

五日午前には春の大祭当日祭を「宮司以下祭員奉仕により斎行、五穀豊饒、皇室のご安泰と国家の隆昌を祈願致しました。

これに先立ち、二日には緑化推進として「植樹祭」と苗木の無料配布が行われ、雨天にもかかわらず多くの方にご参列頂きました。

三日には第一日の儀・子供の祭りを斎行。つづく稚児行列では四十二人のお稚児さんを中心に睦会の誘導による子供太鼓山車、役員総代の陣羽織など総勢四百人の供奉行列が立正俊成会杉並教会の鼓笛隊を先頭に一・三キロの道程を行いました。



翌四日の第二日の儀には当宮で結婚式を挙げられた挙式者の方々が参列、祭典後には清涼殿にて第六回「挙式者の集い」が催され、懇談の一時がもたれました。また「集い」に



先立ちコンサート「若葉inおおもや」を開催、伝統の和楽器と西欧楽器のユニット「東方異聞」が奏でる新邦楽の世界に陪観の参拝者は誘われました。期間中境内は様々な奉祝神賑行事や、参道の植木市や露店なども軒を並べ、活気に溢れておりました。

## 第七回 裏千家献茶式

恒例となりました茶道裏千家献茶式が新緑萌ゆる五月八日斎行されました。裏千家献茶式は平成十一年、天皇陛下御即位十年を奉祝して第一回が催されてより今回で第七回目。献茶の儀は宮司祝詞奏上につづき、裏千家前お家元・鵬雲斎千玄室大宗匠直々のご奉仕で濃茶、薄茶が大前に奉られました。また境内では淡



交会東京第七西支部による奉賛添茶茶会とともに当宮幼稚園園児茶席も設けられ、終日境内が賑わっていました。

## 一日神領民として当宮四十名が 神宮式年遷宮お木曳奉仕

去る五月十二、十三日の二日間、第六十二回神宮式年遷宮お木曳き行事に、一日神領民として大宮八幡宮奉曳団四十名が参加致しました。

一日目の十二日は、先ず神宮内宮にて御垣内参拝をして、平成二十五年の御遷宮の場所である御敷地等を拝観。つづいて二見興玉神社にて祓いを受ける浜参宮をして一日神領民となりました。



翌十三日は外宮領の陸曳き奉仕に参加。あいにくの雨模様でしたが、時刻、采振りの木遣り歌を合図に出発、「エンヤー、エンヤー」と威勢の良

## 遷宮の主な諸祭典

日本人の心のふるさと、伊勢の神宮では平成二十五年十月の第六十二回式年遷宮に向け、次の主な遷宮諸祭が斎行されます。

- 二十年 四月 鎮地祭
- 二十一年 十一月 宇治橋渡始式
- 二十四年 三月 上棟祭
- 二十五年 八月 お白石持行事
- 九月 心御柱奉建
- 十月 川原大祓遷御

## 第二十六回さつき展開催

い掛け声を掛けながら、揃いの白装束を着けた全国各地からの一日神領民千八百余名とともに、お木曳き車に載せた遷宮御用材を外宮まで伊勢市街を奉曳。外宮御垣内参拝を済ませたのち、同日夜、強行軍でしたが全員元気に帰京しました。

第二十六回杉並大宮さつき展示会が去る五月二十六日より六月四日までの間、当宮境内で開催されました。さつき展示会は、杉並大宮さつきの会主催、杉並区後援、当宮の協力で毎年実施されているもの。ペテランから初心者まで同会会員が丹精込めた四十鉢が白や赤、ピンクの可憐な花を咲かせ、参拝者の目を楽しませていました。なお東京新聞五月二十六日朝刊でも「さつき展始まる」と紹介いただきました。

## 第三回大宮八幡宮の杜薪能

第三回大宮八幡宮の杜薪能が去る五月二十一日夕、境内特設舞台上で催され、能「葵上」他が奉納されました。

大宮八幡宮の杜薪能はNPO法人・杉並で能楽を楽しむ会(田木千城夫会長)の主催、大宮八幡宮の共催、杉並区文化・交流協会の後援で平成十五年、当宮御鎮座九四〇年を記念し、杉並区で初の薪能として第一回が催されてより

三回目となるもの。

当日午後五時半、修祓につづき舞囃子「忠度」一番、狂言「附子」一番が演じられたあと火鑽神事。古式により鑽り出された浄火が篝火に移されたあと能「葵上」一番がシテ・観世流野村四郎氏ほかにより演ぜられました。



「葵上」は『源氏物語』葵巻を題材とした演目。光源氏の恋人・六条御息所の生霊が光源氏の正妻・葵上を苦しめる。葵上を象徴する舞台上の一枚の小袖。巫女の弾く梓弓によってさまよい出る御息所の生霊…。恋情と嫉妬という人間の性を見事に描き出す演目は陪観者の大きな感動を引き起しました。

### 敬神婦人会(りんどう会)の結成と会員募集

郷土の氏神信仰を女性の立場で後世に伝えていこうと、かねてより設立準備が進められていた当宮敬神婦人会(略称りんどう会)が、九月一日に結成奉告祭並びに結成式が執り行われる運びとなりました。当敬神婦人会は氏神様への女性

大宮八幡宮の杜新能を

### 岸ユキ(女優)さんがエッセイで紹介

当宮の崇敬者で女優の岸ユキさんがJTBの広報誌「トラベルライフ」七月号に大宮八幡宮の杜新能をモチーフとしたエッセイ「篝火の炎とともに」を発表されました。岸さんは『東京のへそ』と呼ばれる当宮神域での新能陪観の感動を日本の歴史へ胎内帰するひとときと表現、とくに杉並で能楽を築きむ会のボランティアの手作りの新能に「その地域に住む人たちの思いが篝火の炎とともに伝わってきた」との思いがこめられています。



篝火の炎とともに(大宮八幡宮の杜新能)

ならではのご奉仕を通じて地域社会の発展にやささかなりとも寄与したいと、氏子各地区の女性有志の方々によって結成準備が進められて来ました。神社の祭典行事への積極的参加を始め、わが国の伝統文化に根ざす信仰心涵養のための諸活動が行われます。奮ってご入会を願いご案内申し上げます。

### 両陛下御渡航安泰祈願祭

天皇皇后両陛下には去る六月八日より十五日の間、シンガポール、タイ、マレーシアの三カ国を訪問されましたが、当宮ではこれに先立ち六月一日、御渡航行幸啓安泰祈願祭を斎行致しました。

この度の行幸啓はシンガポールとの国交樹立四十周年とタイ国王即位六十周年の記念式典ご参列のため両国をご訪問、またマレーシアはその途次お立ち寄りになられるもの。安泰祈願祭は一日午前九時より朔旦祭に併せ宮司以下祭員奉仕により中祭で斎行、行幸啓の平穩を祈願致しました。また御渡航期間中は毎日の御日供祭でご安泰を祈願。十五日のお帰りの日には還幸啓奉告祭を中祭でご奉仕申し上げます。

### 自衛隊イラク派遣任務完了の報賽祭

当宮では陸上自衛隊のイラク派遣に伴い平成十六年二月の紀元祭より二年半にわたり朔旦祭・月次祭と毎日の日供祭にて派遣自衛隊員の安全祈願祭を奉仕してまいりましたが、このたび復興支援群の隊旗返還にともない、八月一日朔旦祭に併せて任務完了奉告の神恩報賽祭を斎行致しました。

### 古峯ケ原と中宮祠へ大祓形代流し旅行

恒例の大祓形代流し旅行が七月二十六・二十七日の両日行われ、今年も栃木路を訪問しました。この旅行は六月三十日の夏越しの大祓でお納め頂いた形代を灰にして、海川に流す形代流し神事として毎年行っているもの。氏子崇敬者三十九名が参加。二十六日は鹿沼市の西、古峯ケ原を流れる大芦川で形代流し神事を斎行、日本武尊をお祀りする古峯神社を正式参拝、午後には日光に向かい、中禅寺湖畔の一荒山神社中宮祠参拝後に中禅寺湖温泉に宿泊。



翌二十七日は金精峠から吹き割りの滝、水沢観音など上州路を経て無事帰着しました。

### 第二十三回戦没者慰霊祭

終戦の日の八月十五日、当宮氏子区域出身の戦没英霊を追悼慰霊する第二十三回「大宮八幡宮戦没者慰霊祭」が当宮清涼殿で斎行されました。大宮八幡宮戦没者慰霊祭実行委員会(高橋住雄実行委員長)の主催による慰霊祭にはご遺族や関係者が参列。正午、日本武道館での

全国戦没者追悼式での天皇陛下の黙祷に合わせ黙祷を捧げたのち、宮司以下祭員奉仕により慰霊祭を斎行、大宮幼稚園園児による「朝日子舞」の奉奏や箏曲「海ゆかば」の追悼演奏等を行い、ご英霊をお慰め申し上げました。

**御嶽榛名神社例祭に  
奉祝幟一对奉納**

今年の御嶽榛名神社の例祭（五月十六日）に合わせ、松ノ木にお住まいの松島一男氏より例祭奉祝の幟一对が奉納されました。当日はあいにくの雨模様になりましたが、毛塚講元ら御嶽榛名講の方々が参列されました。

**王朝の雅「乞巧奠」**

王朝の雅びを現代に再現する平

**大宮八幡宮賛歌が  
お目見え**

当宮の御神徳を讃える大宮八幡宮賛歌がこのほど松沢七海司作詞、大野貢二作曲で完成。志村侑香さんが熱唱しています。明日へつづく想いを氏子崇敬者の皆様に歌っていただけのようにつくられています。ご愛唱下さい。

大宮八幡宮賛歌  
常しなえ 春の夜風 杜の夜風 山照らしつじ 氏子を守り 大宮八幡宮

とこしえつづく 共生の木は 黎明も 大宮八幡宮 大宮八幡宮

千日語り 先祖達り 先づらかに 大宮八幡宮

神輿宮入り 八条白雲に 子孫の道 大宮八幡宮

三、笛、太鼓、天の八幡、肝心の益人、産土大神

常しなえ 春の夜風 杜の夜風 山照らしつじ 氏子を守り 大宮八幡宮  
とこしえつづく 共生の木は 黎明も 大宮八幡宮 大宮八幡宮  
千日語り 先祖達り 先づらかに 大宮八幡宮  
神輿宮入り 八条白雲に 子孫の道 大宮八幡宮  
三、笛、太鼓、天の八幡、肝心の益人、産土大神



清涼殿口  
期間中、  
朝、天皇が

安の七夕飾り第八回「乞巧奠」が今年七月一日より十七日の間、清涼殿ロビーに展示されました。乞巧奠の乞は願い、巧はたくみ、技術、奠は祭り、学業技芸の上達を願う行事として平安時代より宮中を中心に行われて来ました。乞巧奠は元々は中国の魔除けの風習で、それに牽牛織女の伝説、また川のほとりで機（はた）を織りながらお盆の先触れの神の来臨を待つという我が国の棚機（たなばた）つ女（め）の伝説が一体となったものと云われています。



ずした日の「祭事」として和太鼓、響道宴、内藤哲郎、笛、武田朋子、舞踏、伊藤虹等の各氏のコーラボレーション

**夏の風物詩  
納涼大宮天神まつり**

天神祭の七月二十五日夕、第六回納涼大宮天神まつりが執り行われ、夏の風物詩に境内は多くの参拝者で賑わいました。この日、境内社・大宮天満宮にて午後五時半より天神祭を斎行、境内に掲出された幼稚園児や小中学生、一般公募の書画行燈二百余基に火がともされました。ついで「時間を

これに御歌を書いて供えられたのが短冊のルーツと言われる梶の葉で四囲をめぐらし、詩歌・管弦・書などの上達を祈って筆硯、雅楽器、五色の糸などが供えられ、四日の読売新聞都民版にもその様子が紹介されました。二日と九日の夕には職員による雅楽や神楽舞が奉奏され、多くの方々にご陪観頂き、また、七日の夜まで神門前には笹竹が立てられ、参拝者は思い思いの願いを込めた短冊を付けていました。

**太鼓谷稲成神社  
巫女さんら研修旅行で来宮**

七月十一日、日本五大稲荷神社に数えられる島根県津和野の太鼓谷稲成神社の中島眞幸禰宜他巫女等六名が研修で当宮を参拝されました。

**杉並区神社総代会  
役員総会で山田区長講演**

七月十一日夕刻より、杉並区神社総代会役員総会が当宮にて行われました。参拝の後、総会が開かれ、山田宏杉並区長による講演があり、これからの区政における教育、特に次代を担う子供たちの教育のあり方について熱心に語られました。懇親会にも出席、総代らと和やかに懇談されました。

**職場体験学習**

杉並区の区立中学校では、社会の仕組みなどを学ぼうと職場体験学習を実施しております。今年も当宮で西宮中学校・高南中学校・和田中学校の生徒が、七月にそれぞれ五日間職場体験を行いました。

### 第六回 十五夜の神遊び

#### 『月の音コンサート』

十月七日(土) 午後六時より

当宮では十月七日の望月に第六回「十五夜の神遊び」を斎行致します。神遊びとは神慰め、神祭りのこと。満月に神域では竹筒に浮き蠟燭を浮かべた竹燈籠八百基に浄火が点され、仲秋祭を斎行、雅楽や神楽舞の奉奏につづき、日本ギター界の第一人者莊村清志氏による「月の音コンサート」が催されます。

#### 「月見の宴」のご案内

清涼殿ではこの日に因んだ特選の新作料理「月見御膳」をご賞味頂く「月見の宴」が催されます。

名月を愛でながら、古式ゆかしい雅楽の調べやギターの演奏をお楽しみ頂いたのち十五夜の雅と幽玄の余韻の中、「月見の宴」のひとつときをお過ごし頂きますようご案内申し上げます。

平成18年10月7日(土)

午後八時(月の音コンサート終了後)開宴  
清涼殿2階にて

#### 「月見の宴」お品書き

- 一、秋鮭と秋野菜の焼き物
- 一、サーモンマリネ
- 一、魚介のムースカボチャ包み
- 一、ローストビーフの季節の生野菜添え
- 一、月見たまご
- 一、カダイフの変わり揚げと人参の天ぷら
- 一、若竹の湯葉饅頭

一、竹筒のマンゴープリン

一、林檎のグラタン

一、白餡の月見だんご

一、お吸い物

一、旬飯と豚と栗のちまき

※コース内容が一部変わる場合がございます

#### ◎御神酒付

お一人様 三、八〇〇円(税込)

限定一〇〇名



10月1日(日)までに

代金を添えてお申し込み下さい

※限定数に達し次第締め切らせて頂きます。  
※雨天でも「十五夜の神遊び」「月の音コンサート」は行われます。

◎お土産用和菓子「竹ひめ」

当日のみ販売致します。

お申し込み・お問い合わせは

### 大宮八幡宮 清涼殿

TEL 〇三〇三三三二二七五二五  
FAX 〇三〇三三三二二七五二六

## おめでとう 七五三詣

お子さまの健やかな成長と幸せな未来をお祈りする七五三詣。晴れの日を迎え、お子さま自身もひとつ大人になったという誇らしさ、可愛らしさで胸をいっぱいにすることでしよう。だからこそ、大切な記念日を家族皆さまの大きな愛で素晴らしい一日にしてあげてください。大宮八幡宮で全てをお決め頂ける展示ご予約会のご案内です。七五三のお祝い当日も同じ会場で実施いたします。スタッフが参拝される皆様の大切な記念日をお手伝いさせていただきます。ご来場をお待ちしております。



### 七五三レンタルプランご予約会

ご予約会日：8月19日(土)より毎日開催  
開催時間：朝10時～夕方5時まで

大宮八幡宮 清涼殿 TEL:03(3312)7515

#### 結婚式挙式者芳名 (敬称略)

(平成十八年四月一日)

平成十八年六月三十日

秋本和雄・栄美

原口宇内・真紀

青木久・真理子

田浪英幸・朝子

香村光夫・陽子

近藤光寿・淳子

朝日知義・百代

鈴木浩太・奈緒

小森孝晋・富士子

松浦稔・和代

阿久津満男・美栄

濱田平・麻美

太田薫・こずえ

信田定男・尚子

大野晴央・みき

加藤公一・優美子

中嶋貴広・智香子

佐戸武史・明子

雨宮睦雄・浩子

望月秀記・美紗子



七五三お参り袋が新デザインで新調されます

切画家：風祭竜二作

#### 七五三年齢表

三歳 男・女児 平成16年生

五歳 男児 平成14年生

七歳 女児 平成12年生

※生まれ年と年齢は数え年によるもので、満年齢でご祈祷をお受け頂いても差し支えございません。

# 大宮八幡の杜 秋も深まり

## 第八回 菊被綿飾り

大宮八幡祭りに合せ、九月九日より十八日までの間、当宮結婚式場清涼殿ロビーにて重陽の節句の行事、菊被綿（きくのきせわた）飾りが再現・展示されます。



期間中は清涼殿ロビーに赤、白、黄の被綿が覆われた百数十鉢の菊花が飾られます。

## 区の後援で 第二十八回 杉並大宮菊花展

第二十八回「杉並大宮菊花展」が十月二十五日より十一月二十六日までの間、当宮神域で開催されます。同菊花展は杉並大宮菊の会主催、杉並区後援で毎年開かれて



いるもので、今年も盆養菊、盆栽菊、懸崖、文字菊などが所狭しと展示され、特に七五三詣の小さな紳士淑女たちの記念写真の撮影の場にもなっております。

## 第十六回 花笠まつり

第十六回「杉並花笠祭り」が来る十二月九日当宮境内で開催されます。杉並花笠祭りは当宮とサミット株式会社主催、山形県他の後援で毎年催されているもの。

当日は奉納奉告祭齋行後、神門前広場のメインステージでの御神酒の鏡開きが行われ、午前と午後には東京山形県人会花笠踊り愛好会や地元商店会婦人部など多数の踊り手による花笠踊りパレードを実施。表参道には生鮮野菜の産地直売の店舗など多数が出て境内は凡そ三万人の人数で賑わいます。



## 秋の大祭後の主な祭典行事

10月25日	第28回杉並大宮菊花展
11月26日	月次祭並七五三祝祭
11月15日	新嘗祭
11月23日	第16回杉並花笠祭り
12月9日	天長祭
12月23日	除夜祭
12月31日	大祓（年越祓）
平成19年	
1月1日	歳旦祭
1月2日	元始祭
毎月1日	朔旦祭
毎月15日	月次祭
毎月最終の土曜日又は日曜日	大宮八幡宮フリーマーケット

## お朔日参りを致しましょう



## 親子で遊ぼう会

梅雨入りして天気心配されていましたが、幸いにも雨が降らず、今年も六月十七日、大宮幼稚園では



「親子で遊ぼう会」が開催されました。子どもたちは、この日のために歌を練習したり、プレゼント作りに頑張っていました。「お父さんが来るの楽しみ！」「お父さんにプレゼントは内緒なんだ！びっくりするかなあ」など何日も前から楽しみにしている様子でした。

年長組では、子どもたちにお父さんについて、いくつかの質問をしてCDにしたのですが、日頃お父さんのことをよく見ているのだなと思いました。例えば「お父さんのどんな所が好きですか」の質問に対して「お仕事をしている所がかっこよく好きです！」と答えている子がいました。毎日お父さんが仕事へ出掛ける姿を見ているんですね。当日、CDを受け取ったお父様方は少し照れながらも喜んで下さいました。毎日頑張っているお父さんに感謝の気持ちを伝えることが出来た子どもたちは、また一つ成長した様に感じます。

教諭 守屋 美穂



# 初宮詣芳名

(平成18年4月1日〜平成18年7月20日)

お健やかな成長をお祈りいたします

- |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |        |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 秋山結子  | 渡部果音  | 若狭柑南  | 松下光   | 藤井郁花  | 吉田聡花  | 横田花蓮  | 八木花穂  | 磯部里彩  | 岩田美優  | 小松夢唯  | 川西晴大  | 澁谷寧々  | 土田律媛  | 中村楓   | 松本和佳奈  |
| 齋藤みはね | 浅尾一華  | 田中里実  | 内藤愛恵  | 立木翠   | 黒沢碧   | 本波朱蘭  | 稲葉ひかり | 中谷心寧  | 山口大輝  | 相澤拓   | 森竹ことみ | 伊藤陽史  | 森田将巨  | 高柳恒之介 | 中島大和   |
| 半田菜月  | 田所葵   | 新井智香  | 笠原沙和  | 荒谷成紀  | 黒須可南子 | 北垣伸一郎 | 長友樹希  | 山崎蓮太郎 | 山口啓佑  | 伊東優希  | 石橋木実  | 伊藤乃愛  | 山岡佑太  | 新井優太  | 中島大和   |
| 清水亮介  | 中根大和  | 松本大樹  | 寺田朱里  | 藤倉新里花 | 鈴木晴   | 萩原秀介  | 福原聖生  | 植川晴弥  | 河野竜太  | 笠井陽菜  | 土肥宙渡  | 幡野優菜  | 持田知佳  | 藤田紗矢香 | 小川智也   |
| 小林波月  | 藤岡百音  | 吉成華怜  | 齋藤匠杜  | 山本久笑々 | 藤倉新里花 | 横山小梅  | 兼頭里菜  | 平川晴弥  | 河野竜太  | 笠井陽菜  | 土肥宙渡  | 森永郁海  | 若山鉤飛  | 竹田光   | 奥田淳太郎  |
| 寺内柊   | 多胡果音  | 藤田佳歩  | 甘利瑞季  | 長谷川直紀 | 鈴木晴   | 萩原秀介  | 福原聖生  | 小林穂乃花 | 松田陵   | 定方優姫乃 | 大平高稔  | 原田美桜  | 佐瀬晴香  | 細田康平  | 池内あかり  |
| 多部田啓  | 種茂友斗  | 太田優万  | 上原百々香 | 沼田直紀  | 清水優仁  | 中村芽依  | 細川旺輝  | 岡本淳之介 | 湯川月菜  | 関根颯   | 河内航太  | 正野寛一郎 | 松本神柊  | 加納美愛子 | 嶮崎山のかん |
| 馬場生羽  | 廣田凌一  | 小沼留美奈 | 若槻結   | 中村椋牙  | 石原福太郎 | 澤嶋英乃介 | 本松佳磨  | 菊地亮良  | 高橋咲帆  | 行松葵   | 関心乃美  | 行方泰雅  | 河原彰吾  | 高橋俊介  | 木谷瑛太   |
| 奥村航季  | 古屋眞介  | 星野賢人  | 小川遥己  | 沼田祐一郎 | 沼田祐一郎 | 橋本真真  | 樋口蒼   | 田村優悟  | 小林桜   | 小林里帆  | 生駒白菜乃 | 出町海登  | 奥野裕介  | 野中奨士  | 押田匠輝   |
| 石井彩   | 幣大地   | 山重ここね | 吉田開   | 清水優仁  | 松下結衣  | 堀井和佳  | 渡辺優哉  | 野村侑生  | 秋本久颯  | 齋藤紗葉  | 松崎芹菜  | 江口琴音  | 持立眺成  | 高橋七華  | 大塚舞織   |
| 佐藤由衣  | 一法師馳史 | 長谷川りさ | 島田渚史  | 石原福太郎 | 久保田朋佳 | 永瀬海七音 | 比嘉洋介  | 野本航希  | 酒井しおん | 堀田日向子 | 風間悠   | 見吉一蒔  | 小野美咲  | 花井陽歩  | 岡谷啓立   |
| 土屋篤史  | 木村仁美  | 高橋優太郎 | 山本礼弥  | 大泉奈美妃 | 河田史弥  | 近藤さくら | 日下部我空 | 高橋真希  | 和田優輝  | 加藤美空  | 風間悠   | 榎本琉偉  | 杉本陽太  | 繁竹萌音  | 桜井彩    |
| 川上千慧  | 瀧川拓海  | 坂中佑羽  | 久保田豪太 | 渡邊秀俊  | 二階堂樹  | 近藤さくら | 日下部我空 | 宮牧希歩  | 小林あい  | 佐藤香花里 | 中島梁山  | 小松崎夏凛 | 増淵風雅  | 藤沼志保  | 齋藤林太郎  |
| 山口智也  | 柳本昂汰  | 池側修司  | 佐野公留美 | 久保田豪太 | 古橋遼太郎 | 佐野巨太郎 | 中園南   | 佐藤香登子 | 矢野陽菜  | 眞柄直輝  | 新本椋子  | 五十嵐奏子 | 今吾咲   | 吉田大和  | 梅山りんか  |
| 大久保樹  | 高城恵奈  | 鈴木望夢  | 赤尾勘太郎 | 久保田朋佳 | 永瀬海七音 | 比嘉洋介  | 眞崎涼   | 飯坂美月  | 山口颯太  | 岡田優菜  | 藤田知也  | 春田玲奈  | 渡邊碧衣  | 立川輝羅  | 大原瑞月   |
| 渡邊華音  | 土屋元気  | 安藤里紗  | 長谷希音  | 北理彩子  | 是安健太  | 大野地咲子 | 川島逢桜  | 坂田健斗  | 久保田真緒 | 松下瑞樹  | 工藤隼人  | 木野優美  | 小島碧   | 野口碧天  | 木村陸翔   |
| 金谷泰良  | 山口康介  | 山内海椰美 | 山内龍也  | 岡田尚真  | 安井悠華  | 坪田健吾  | 石瀨真ノ介 | 荒川鈴菜  | 松本椋鈴  | 松下晴香  | 藤原真緒  | 川合優菜  | 野口碧天  | 木村陸翔  | 品川心那   |
| 鳥谷陽音  | 梶田琉   | 雑賀陽   | 鈴木正隆  | 野村陽菜  | 伊藤柊斗  | 新岡隼   | 吉田希美  | 吉澤篤史  | 犬塚美羽  | 関口大地  | 松田幸人  | 新井雄飛  | 篠澤慧吾  | 小野藍大  | 井上純    |
| 森山聖   | 梶田玲   | 竹中稜太郎 | 田島啓梧  | 森田陸斗  | 竹澤菜月  | 森川裕樹斗 | 成清樹   | 馬場光生  | 鶴田祥恵  | 小西瑛太  | 石川魁士  | 中川大和  | 池野真理花 | 吉岡鷲   | 月原凜也   |
| 上原真真  | 富永篤   | 五十嵐優里 | 小須田一久 | 多田瑞季  | 長尾鞠子  | 鈴木遥香  | 長谷川舞衣 | 間野こはる | 木下真緒  | 新谷惇樹  | 篠原凛太郎 | 滝沢一敬  | 唐司大和  | 大行仁   | 吉田圭佑   |
| 青柳菜乃羽 | 内田りのあ | 山本幹大  | 金川直平  | 村越鈴子  | 伊集院美羽 | 齋藤龍星  | 岡本美咲  | 源原佳奈  | 保坂美晴  | 小原匠翔  | 北沢羽卓  | 新山乃菜  | 鶴田康介  | 前田雅空  | 小川敏樹   |
| 渡邊春乃  | 上川潤   | 佐伯明飛  | 内海太一  | 山口諒大  | 越野集   | 湯上大輔  | 和田彩花  | 青木梨亜  | 小原里菜  | 末岡里菜  | 高平はな  | 内藤大空  | 古関ののか | 小泉大和  | 佐々木ゆら  |
| 渡邊雪乃  | 石原悠斗  | 杉田聡哉  | 杉田聡哉  | 石井諒也  | 石橋和樹  | 湯浅翔太  | 高津李衣  | 小幡希夢  | 濱田彩暉  | 清水彩生  | 平沼春美  | 小野修平  | 種田羽菜  | 中塚悠乃  | 早川志織   |
| 福井那波  | 砂川菜登  | 小澤龍之介 | 富田汐音  | 山内諒   | 安藤賢真  | 古川菜々美 | 中嶋凜空  | 片岡啓音  | 細野虎太郎 | 岡田隆希  | 屋なつ   | 吉岡咲   | 風見優   | 神田悠成  | 奈良歩美   |
| 佐藤大介  | 櫻井隼人  | 松本香里奈 | 及川日向  | 山本拓夢  | 森結香   | 川野布美子 | 大木來実  | 滝沢健人  | 新妻勇輝  | 島田稜巳  | 萩野優衣  | 角脇光典  | 高比良芽吹 | 大石美桜  | 水島健斗   |
| 桐本煌己  | 宮崎莞人  | 小浦瑠花  | 野津友希  | 武澤玲佳  | 吉田理人  | 村上秀太  | 廣木大地  | 陸山裕理  | 早川涼音  | 蠟山雄輝  | 藤田璃紗  | 土井凜   | 池田竣飛  | 林真緒   | 飯田通音   |
| 松下幸多朗 | 坂本結   | 瀧口眞央  | 江部怜士  | 津川裕昭  | 河北利穂  | 福木美侑花 | 吉田智哉  | 中村仁春  | 板場大輝  | 金子るみ  | 松澤眞生  | 寺田真菜  | 砂山琴音  | 郡司有菜  | 堀隼人    |
| 横堀花奏  | 田中俊祐  | 三浦かみの | 平田結愛  | 中村春葉  | 河北菜穂  | 石井あや  | 飯島景大朗 | 本間吟奈  | 田岡万依  | 井上泰   | 人見涼平  | 加藤雅啓  | 江原力   | 深町美澄  | レビン美夏  |
| 松本旬平  | 平見春陽  | 国東稜将  | 内野流音  | 阪本誠一  | 石本乃奈  | 渡邊良太  | 太田誠二  | 荒川航汰  | 子安南穂  | 清家凱久  | 坂本桃花  | 鈴木陸   | 渡邊優菜  | 石森千裕  | 鈴木くるみ  |
| 山地真央  | 前澤真央  | 小野慈英  | 佐藤敏人  | 山本真碧  | 宇賀神拓吾 | 蛭沼文菜  | 小金丹美桜 | 櫻井ちり  | 藤本早智  | 三枝凌久  | 長谷川さら | 祖山英歌  | 山本晴統  | 勝見燦   |        |
| 秋葉陸汰  | 中根凌海  | 河野紗奈  | 大日方萌歌 | 竹内悠真  | 竹葉零斗  | 市川莞颯  | 木下陽介  | 永渕そよな | 山崎真弥  | 益々こ   | 秋元悠太  |       |       |       |        |
| 東菜々   | 岩崎帆未  | 林恵辰   | 柴田祥秀  | 森澤美咲  | 木村陽帆  | 小倉悠輝  | 堀越大輝  | 北風凜   | 久保美晴  | 川上央修  | 大村心士  |       |       |       |        |
| 櫻並陽菜  | 永井彩那  | 森唯花   | 大鶴凱主  | 平野希   | 渡辺小雪  | 岡本瑠   | 池本鈴   | 栗原沙也  | 池田稟   | 石井菜奈花 | 川口真優  |       |       |       |        |
| 若原美咲  | 北條由佳  | 児島優   | 福田望来  | 海老原颯人 | 佐藤玲香  | 石田留唯  | 大塚舞輝  | 田崎大偉  | 中村聖和  | 青木瑛音  | 大城舞桜  |       |       |       |        |

お詫ひ  
 前号社報第七号「初宮詣芳名」中、次のお名前の誤記が有りました。紙面を借りてお詫ひ申し上げ、改めて掲載させて頂きます(敬称略)。  
 吉岡里紗 橋田眺太郎 東雄大 林龍斗

# 大宮八幡祭り (秋の大祭) 9月14日～18日

## ・ 例大祭 (9月15日)



宮司以下参進



献幣使参向



神楽「浦安舞」奉奏

## ・ 氏子奉幣祭 [奉祝当日祭] と神賑行事 (9月16・17日)



奉幣使 氏子祈願詞奏上



舞楽「蘭陵王」奉奏



山田区長玉串拝礼



宵宮祭 (9月16日)



勇壮な杉並太鼓 (9月16日)



園児民謡踊り (9月16日)



方南エイサー踊り (9月16日)



小笠原流三三九手挟式 (9月17日)



第28回 小原流献華展 (9月15～18日)

大 宮 第 7 6 号

平成 1 8 年秋の大祭号

平成 1 8 年 9 月 1 日発行

大宮八幡宮社務所

東京都杉並区大宮 2-3-1

電話 (3311)0105 〒 168-8570



裏千家 野点茶会 (9月17日)



盆栽展 (9月16・17日)